

## 平成24年度 日本獣医師会獣医学術賞の受賞者及び受賞研究業績

本年度の日本獣医師会獣医学術賞の選考は、奨励賞は日獣会誌の平成22年8月号（第63巻第8号）から平成24年7月号（第65巻第7号）に掲載された原著・短報を対象に、学会賞は獣医学術学会年次大会（大阪市）において発表された地区学会賞の中から、功労賞は推薦のあった永年の功労の業績の中から、選考委員会において厳正に審査され、平成24年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会（大阪市）における授与式において本会 山根会長から受賞者に本賞及び、協賛会社（日本全薬工業(株)、共立製薬(株)、日本ハム(株)）から研究奨励金20万円（目録）が授与された。

表彰された受賞者及び研究業績の一覧は次のとおり。

### 平成24年度 日本獣医師会獣医学術賞受賞業績

#### 【産業動物部門】

##### 獣医学術奨励賞：

「Loop-mediated isothermal amplification法を用いた馬鼻肺炎による流産の診断法の検討」

小山 毅（北海道日高家畜保健衛生所），他  
 〈選考理由〉馬鼻肺炎ウイルスによる流産の診断には、CF法やPCR等の遺伝子診断法が用いられているが、時間と設備を必要とする。LAMP法はこれらを改善した遺伝子診断法であり、本論文は、このLAMP法を馬鼻肺炎ウイルスによる流産例に応用し、従来のCF法と同等以上の診断における感度、特異度を示すことを明らかにした。簡便な診断法としての実用性を示したものであり、迅速な流産対策に道を開いたものとして高く評価できる。

##### 獣医学術学会賞：

「鶏サルモネラ症に対する卵内接種リポソームワクチンの開発」

渡来 仁（大阪府立大学），他  
 〈選考理由〉本研究は、鶏サルモネラ症予防のため、リポソームにサルモネラ菌体成分を封入し、卵内接種ワクチンを開発し、これが応用可能であることを示したものである。免疫原を変更することで汎用的なワクチンの開発に応用できる可能性を示したことは、獣医学術の進歩に大きく貢献するものである。

##### 獣医学術功労賞：

「牛の遺伝性疾患の臨床診断、遺伝子診断の確立と牛群からの排除」

小川博之（東京大学・名誉教授）

〈選考理由〉長年にわたって獣医臨床病理学及び獣医内科学分野の学術活動に従事し、特に、牛の遺伝性疾患に関する臨床的研究において著しい成果をあげ、学術専門誌にも多数の論文を発表した。これらの業績は、産業動物獣医学に関する学術の振興及び普及に大きく貢献した。

#### 【小動物部門】

##### 獣医学術奨励賞：

「ミルリノンとカルペリチドの低用量併用療法を実施した重症心不全の犬5例」

有田申二（有田総合動物病院・広島県），他

〈選考理由〉犬の慢性心不全の急性増悪期に対する治療法として、獣医療で初めてミルリノンとカルペリチドの低用量併用療法の有用性を報告したものであり、極めて新規性が高く、小動物臨床に携わる獣医師に対して貴重な情報提供を行っている点が高く評価される。論文の中では心機能の解析を詳細に記述して併用療法においても心拍出量の低下や腎機能の悪化を招くことなく、致命的な心不全を改善した点が詳細に記述されている。臨床的意義が的確に論議されているため、今後の臨床応用へと繋がる内容である。

## 獣医学術学会賞：

「高アンモニア血症を呈したジヒドロピリミジナーゼ欠損症の猫の1例，動物における世界初例報告」

柴田多嘉子（いずみ動物病院・愛知県），他  
〈選考理由〉猫の高アンモニア血症を呈した1症例に対して病因を追求し，ジヒドロピリミジナーゼ欠損症と診断した報告である．日常よく遭遇する高アンモニア血症に対して，その病態解明のために実施した検索方法の妥当性と解析結果は本賞受賞に値する優れたものである．1症例を大切に，その異常原因を追求する姿勢は，臨床に従事する獣医師としての原点を再認識させた．

## 獣医学術功労賞：

「獣医臨床病理学と内分泌・代謝疾病学に関する学術の振興と普及」

小野憲一郎（東京大学・名誉教授）  
〈選考理由〉長年にわたり獣医学教育分野の充実と獣医学研究の発展に尽力され，特に小動物の糖尿病や高脂血症などの内分泌・代謝性疾患の研究を推進し，これらの研究成果を数多くの学術誌に公表した．このように，小動物獣医学に関する学術の振興と普及に多大な効果をあげた．

## 【公衆衛生部門】

## 獣医学術奨励賞：

「島根県におけるつつが虫病の疫学的検討」

田原研司（島根県保健環境科学研究所），他  
〈選考理由〉本論文は，島根県下におけるつつが虫病の疫学を患者ならびにげっ歯類の双方から血清学的及び分子遺伝学的手法を用いて解析し，アカネズミが自然界において本リケッチャの維持に大きく関与していることを明らかにした点は高く評価できる．また，広範囲の疫学調査より，つつが虫病の人への感染源を突

き止めた点も公衆衛生上の重要な知見となっている．

## 獣医学術学会賞：

「MALDI-MSを用いた病原微生物の同定と分子疫学ツールとしての有用性評価」

谷口喬子（宮崎大学），他  
〈選考理由〉本研究は，菌体の主要構成蛋白質であるリボソーム蛋白質の解析にマトリクス支援レーザー脱離イオン化質量分析法（MALDI-MS）を応用し，これまで分類が困難な菌種で大きな成果を得た．特に人獣共通感染症の原因菌として重要視される *Helicobacter* 群の細菌を迅速かつ簡便に同定した．今後，16S rRNA 遺伝子配列や生化学性状検査で同定が困難な菌種に應用が可能であり，臨床細菌学や公衆衛生上の分子疫学研究に新たな解析手法を提示した点を高く評価した．

## 獣医学術功労賞：

「フラビウイルス感染症の疫学的研究」

高島郁夫（北海道大学・名誉教授）  
〈選考理由〉長年にわたりウイルス性人獣共通感染症の領域において多大な研究業績を残している．特に，北海道における日本脳炎ウイルスの越冬機序の解明，ダニ媒介性脳炎における疫学的研究やウエストナイルウイルスの研究は高く評価される．また，長年にわたり日本獣医公衆衛生学会の発展に大きく貢献した．



平成24年度日本獣医師会獣医学術賞受賞者  
左から，高島郁夫，谷口喬子，田原研司，小川博之，  
小山 毅，渡来 仁，有田申二，柴田多嘉子(代理)，  
小野憲一郎の各氏